

該当組織は創業16年のベンチャーイスマの強い学校法人であり、通信制高校や高等専修学校など全国で数拠点、職員数は最高経営責任者を含め100名弱。組織や仕組み、職員も入退職や転勤などで毎年

ナビゲーター

入れ変わる。

Aさんは美大卒の36歳女性で、この春当職場に入職してきた。

美大に入学した理由は、イラストを描きたいという思いと、勉強が嫌いだったため、何か一つ人より優れたものを

◆ 40

理論と私の実践 産業カウンセリング

持ちたいと思ったこと、画力がないため、大学で画力を伸ばしたいと思ったことだった。

入試のために努力したことで、デッサン力などはとても力がついたそうである。

大学時代の就職活動は、メーカーの商品の企画開発などで、自分にしかできないことをしたいと思ったそうである。

しかし会社見学をしてもピンとくるものがなかったが、教育実習先で「教員もいいのか

人はなぜ辞めるのか

な」と思う。

そして、自分が学生時代は先生に話を聞いてもらったことがないことに気が付き、「生徒に寄り添える先生になりたい」と思い教職の道を選択した。

就職先は本意ではなかったが、公共施設の臨時職員と母校の非常勤講師からスタートし、2年目に擁護学校での常勤講師。教員採用試験を受験したりしながら5年目で福祉系の専門学校に正規社員として就職した。

その専門学校で4年ほど勤務をしたが、事業部門拡大により経営が悪化。将来に不安を感じるようになり退職をした。現在は冒頭に記した学校法人で正規社員として勤務している。勤務して半年、Aさんの悩みはいろいろあるが、特に給与や福利厚生など待遇面に不満があるとのこと。

人が働くうえで外すことのできない価値観のようなもので、「技術・職能」「管理能力」「自律・独立」「保障・安定」「起業家的創造性」「奉仕・社会貢献」「純粋な挑戦」「ライフスタイル」と八つのカテゴリーに分かれる。

Aさんのセルフ診断では「保障・安定」であり、これまでの転職の動機や、職場の体質などからも納得できるものはあった。このキャリア・アンカーの人が向いている働き方は変化を嫌い、安定を

そこでAさんのキャリア・アンカーを考え、簡易的なセルフ診断をもらった。キャリア・アンカーとは、

望むことから、ハーズバーグの衛生理論も外すことができない。Aさんの希望は年齢に見合った収入であり、ベンチャー体質である当該組織における組織や業務内容の変化などについてもAさんが納得するまで丁寧な説明が必要であると考える。企業の人事に関わる方々は、入職の動機や経過をきめ細かくウオッチし、ヒアリングして対応していくことが大切である。

キャリア・アンカーを考える

【日本産業カウンセラー中部支部会員・オーストラリア国家資格ビュティセラピスト 豊林由美子】

(火曜日掲載)

